

令和7年度第1回ヒトES細胞倫理委員会議事要録

開催日時 令和7年9月29日（月）18:15～18:40

開催場所 管理棟3階 特別会議室

出席委員 古宮（委員長）、村上（web参加）、津田、並川、中原（web参加）、島本、
松浦（web参加）、金子（web参加）、坂口、池澤

陪席者 総務企画課研究推進室 江口、早尻、森田、山本

議事に先立ち委員長の選出が行われ、委員による互選の結果、古宮委員を委員長とすることが承認された。

1. 審議事項

使用責任者 池田 真理子

課題名 小児難病の病態解明と治療法開発

審議事項 新規申請

議事概要

事務局から資料の説明に引き続き、使用責任者から研究の概要について説明が行われた。その後、以下のとおり質疑応答があった。

○「移植」、「医療」、「安全性の検証」、「治療効果の確認」など非臨床試験に直結する表現があるのはよろしくないのではないか。

→記載方法を検討する。

○疾患が非常に多いのでフェーズに分けて記載したほうが良いのではないか。

→対象疾患は今後大学院生などが入ってきた時を想定して広く設定している。主に小児の中核奇形の症候群を対象としておりそれほど広いとは考えていない。

○フィーダー細胞とフィーダーフリーと両方書いているはなぜか。

→最近の研究では両方用いる方法が一般的でこれまでもこの方法で研究を行ってきたので両方を記載している。

○遺伝子導入は全部列挙しているが全部するのか。

→遺伝子導入は既に行っている。

○移植実験に関するコメントがあまり書かれていない。テラトーマのリスク管理などは書いた方がよいのではないか。

→分化細胞への移植はすぐに行う予定はないので削除する。

○藤田医科大学からの移管ルートをもう少し明確に記載したほうが良いのではないかな。

→藤田とは MTA ではないが譲渡として手続きを行っている。

○移植後の観察期間や安楽死条件を記載したほうが良いのではないかな。

→分化細胞への移植はすぐに行う予定はないので削除する。

○QC の計画や保存期間（何年保存するかなど）を明記したほうが良いのではないかな。

→QC 及び廃棄について記載する。

○疾患特異的 iPS 細胞では上手くいかないから ES 細胞を用いるということであるが普通の iPS 細胞でも良いのではないかな。

→対照野生 ES 細胞や ES の遺伝子改変体を用いるので遺伝子改変体が疾患株になる。対象の ES 細胞が非常にきれいな大脳皮質になるのでその ES 細胞を改変してノックアウト株を作って疾患モデルにする。疾患特異的 iPS 細胞は市販で野生株が出るのでそれを対象にするがそれでも上手くいかないことが問題になっている。疾患特異的のところ「健常者から樹立した」と加えれば分かりやすくなるかもしれない。

その後、審議の結果、委員からの意見を踏まえて使用計画書を修正することとし、修正した使用計画書を委員長が確認をしたうえで承認することとなった。